



斑鳩の里を訪ねて

第24回歴史探訪の会

実施日 2010年 11月 18日(木) 参加者 23名 案内者 内海春樹

今年は平城遷都1300年祭で奈良も大変盛り上がりました、歴史探訪の会もこれに関連した所を中心に回りましたが、今回は更にそれよりも100年程古い飛鳥時代の遺跡や歴史を勉強しました。

見学コース

藤ノ木古墳～斑鳩文化財センター～法隆寺(東院伽藍～宝蔵院～西院伽藍)

斑鳩の里と聖徳太子

斑鳩地方は大和盆地の北西に位置し、広々とした土地が開け大和川の傍にあり、更に東には秋篠川、西には竜田川が流れ、飛鳥の都から下ツ道で結ばれるという交通の要所で経済的にも軍事的にも重要な地域であった。

6世紀後半までは物部一族がこの地をおさえていたと思われるが、物部氏が蘇我氏との争いで敗れた後は平群氏や膳部(かしわで)氏の勢力範囲となった。

聖徳太子が摂政であった頃、斑鳩の豪族膳部臣加多古の娘を3人目の妻とした後、この地に斑鳩宮と若草伽藍(斑鳩寺)を建て、そこから飛鳥へ馬で通い政治を執り行なった。



法隆寺駅バス亭前



これからの見学のレクチャー

☆ 藤ノ木古墳(国史跡)

藤ノ木古墳は法隆寺に残る記録には「ミササキヤマ」と呼ばれており、崇峻大王陵との伝承もあった。

古墳は直径50M、高さ9Mの円墳で、出土品から6世紀後半に築造されたと考えられる。

橿原考古学研究所により第一次調査以降2006年まで6回行なわれた。

玄室内には奥壁と並行する形で家形石棺が置かれ、その中には2体の被葬者(若い男性、血液型B)が確認され、そばには刀や冠、金銅製の靴、鏡など豪華な副葬品、又身につけていた装身具も1万点を超えるガラス玉や金具が確認され、発表時には国内外に大きな反響を呼んだ。

東アジアでもまれに見る優れた意匠や彫金技術を施したもので、特に鞍金具には竜・鳳凰・象などの模様や鬼神像などを透かし彫りし仏教的要素・四神思想など世界の影響が見られる。

今では綺麗に整地された古墳の周りを見学し、ここで案内者から出土品の写真や説明を受けた。

また、興味深い埋葬者についての推定として、蘇我氏と物部氏の勢力争いに巻き込まれ犠牲となった二人の皇子も話は興味深かった



藤ノ木古墳



藤ノ木古墳説明

☆ 斑鳩文化財センター（今年3がつに会館、11月は特別展示会開催中

・藤ノ木古墳石棺レプリカ・玄室を模した通路・発掘調査の状況を映像で見る・発掘された副葬品（橿原考古学研究所所蔵品）などについてセンターの研究員から説明を受ける。



斑鳩文化財センター



藤ノ木古墳石棺レプリカ



玄室を模した通路



藤ノ木古墳の家形石棺説明

☆ 法隆寺

607年(推古15)に推古女帝と聖徳太子が創建したまさしく斑鳩の象徴といえる寺。
「日本書紀」に670年(天智9)法隆寺全焼の記載があることから、現在の建物は7世紀末の再建と考えられる。
18.7万㎡の寺域内には、世界最古の木造建築が立ち並び、国宝の建築物だけで金堂、五重塔、大講堂、中門、回廊、鐘楼、経蔵、南大門、東大門、夢殿、伝法堂など19棟にも及ぶ。他にも多数の重要文化財の指定を受ける建物があり、総数は50余棟を数える。
貴重な遺構や宝蔵殿、収蔵庫には飛鳥時代の釈迦三尊をはじめ、救世観音、百済観音、夢違観音、玉虫厨子など優れた仏教美術品を所蔵。国宝だけで115点、重要文化財は1958点にのぼる。
聖徳太子の住まいだった斑鳩の宮は現在の東院伽藍の位置にあったが、太子の没後、嫡子の山背大兄皇子ら一族が住んでいたが、643年(皇極2)蘇我入鹿によって焼かれた。
のち739年(天平11)、行信僧都によって夢殿が建立され、上宮王院と呼ばれた。
今日は運良く本尊の秘仏、聖徳太子の微笑とされる救世観音菩薩立像の特別公開中で拝観する事が出来た。
なお、法隆寺は1993ユネスコの第17回世界遺産委員会で、世界遺産条約に基づく文化遺産として登録されている。

当日は全国から修学旅行生が沢山見学にきており、見学場所も長い列が出来る有様。
本日の説明の最後に、山背大兄皇子を始めとする聖徳太子一族がなぜ、従兄弟の蘇我、入鹿に攻められ全員滅亡するに至ったか、で締めくくられた。

☆ 最後に法隆寺寺大野玄妙管主のお話

まず南大門をくぐって入っていただいたときの印象ですね。せっかく来ていただいたわけですから、何か違う世界というものを感じていただきたいのです。
仏様の知恵の光というものがいつでも人々に対して発揮されている、私たちはこれを和光同塵といいますがそういう光りを見つけて欲しいのです。
光を探し、光を求め、そのために巡礼をし、旅をするものですから、私たちはその光が少しでも見つかりやすいような場所を、提供することに努力をしなければいけないと思います。
ここの空気、雰囲気を感じて、違う自分の世界を見つけてほしいと思います。その中から仏様の、あるいは菩薩の光を感じ取る、そういう旅をしていただきたい。これを真の「観光」と私たちは言っています。
この文章は宮大工小川三夫氏の宮大工と歩く奈良の古寺から引しました。



柿くへば鐘がなるなり法隆寺の鐘と碑



「玉虫厨子」法隆寺より転載



36000枚の羽で作成された厨子の玉虫

藤ノ木古墳、斑鳩の宮、法隆寺関連の年表

574年	聖徳太子(厩戸皇子)誕生
580年代	藤ノ木古墳造営
593年	聖徳太子が推古女帝の摂政となり蘇我馬子と共に政治を執る。 (冠位十二階、十七条憲法制定、遣隋使派遣 など)
601年	聖徳太子 斑鳩宮を造営
605年	聖徳太子 上宮(桜井)から斑鳩宮に移り下ツ道を通り飛鳥へ通う
607年	法隆寺(若草伽藍・斑鳩寺)建設、薬師如来像を祀る
622年	聖徳太子死去(49歳) 磯長谷(叡福寺)に葬られる
643年	蘇我入鹿、軍勢を放って聖徳太子の嫡男である山背大兄皇子を襲撃 斑鳩宮焼失、皇子は妃や王子と共に自殺
670年	法隆寺全焼 これ以降現存の伽藍が再建



参加された皆様